

令和5年度（2023年度）熊本市献血推進協議会議事録（要旨）

1. 開催日時

令和5年（2023年）11月9日（木） 14時00分～15時00分

2. 開催場所

ウェルパルクまもと4階会議室

3. 出席委員（敬称略）

緒方 一郎、川田 晃仁、井芹 貴子、岡本 恭典、山川 李好子、市川 貴康、加藤 花望
以上7名

4. 議題

- （1）令和4年度（2022年度）熊本市献血推進事業報告
- （2）令和5年度（2023年度）熊本市献血推進事業計画
- （3）各団体の献血推進活動等について
- （4）若年層への普及啓発について
- （5）その他

5. 報告

熊本県内の血液状況について

--- 議事録（要旨） ---

（1）令和4年度（2022年度）熊本市献血推進事業報告
事務局より説明。（熊本市献血推進協議会資料 P1～3、P5～7）

（2）令和5年度（2023年度）熊本市献血推進事業計画
事務局より説明。（熊本市献血推進協議会 資料 P4）

【（1）令和4年度事業報告、（2）令和5年度事業計画についての質疑応答等】

（議長）

コロナ禍で献血が減っていた校区の献血は復活したか。

（事務局）

新型コロナの影響でここ数年やむなく中止となっている校区は6校区あったが、そのうち今年度において、5校区再開した。まだ再開できていない本荘校区においても、令和6年2月の再開に向けて献血の実施ができるように取り組んでいる。

(議長)

コロナ禍においては、高校献血のセミナーの中止も多かったと思うが、制限等があったのか。

(熊本県赤十字血液センター)

令和4年度についても、コロナの影響がとても大きく、学校でもリモート授業なども進められていたこともあり、高校に行くこと自体がはばかれる状況であった。今年5月に、新型コロナウイルスの位置づけが5類へ変わり、徐々に学校側の受け入れもできるようになってきたため、献血バス、セミナーの実施に向けて徐々に理解を示される高校も増えてきた状況である。

(山川委員：熊本市地域婦人会連絡協議会)

熊本健康アプリげんきアップくまもとについて、このようなポイントを活用しながら、若者の献血者を増やせていけたらと思う。

(3) 各団体の献血推進活動等について

各委員からそれぞれの献血活動の報告。(熊本市献血推進協議会 資料 P8)

① 緒方委員(熊本市医師会)

各医療機関に対し献血会場としての場所や人的サポートするように働きかけを行っている。令和6年2月に本荘校区の献血の会場としての場所の提供等を実施予定。

② 川田委員(熊本商工会議所)

会員会報誌やホームページなどを活用して献血推進の広報活動や、企業献血の実施を呼びかけている。毎月会報誌にて会員(熊本市内の事業率3割程度)に対し、献血を呼びかけなどを行っている。コロナで制限があった企業献血の実施や献血会場としての場所の提供などを今後実施していきたい。

③ 井芹委員(熊本キャッスルライオンズクラブ)

コロナで中止になっていた久留米の血液センターの見学が、令和5年8月に開始された。今年度において、レオクラブの学生を久留米の血液センターの見学会の実施を行った。高校献血依頼活動やミセスオブイヤーとタイアップし、下通り献血ルーム前で献血の呼びかけなどを実施。

④ 岡本委員(熊本市地域献血推進連合協議会)

若年層に向けての啓発品としてオリジナルスナックの配布を開始した。再来年に熊本市地域献血推進連合協議会の60周年を迎えるので何らかの啓発をしたいと考えている。

⑤ 山川委員（熊本市地域婦人会連絡協議会）

毎週月曜、下通献血ルーム前での献血呼びかけ活動。献血してくれた方にみそ汁の提供を以前しており、熊本だけで評判がよかったと聞いた。調理場がないとできないため、どうにか再開したい。校区献血の手伝いは、事業所に行き、若者を時間に区切って順番に献血に来てもらえるように協力をお願いした。献血に御協力いただけるようにそれぞれの団体の力を借りながら、事前広報することが重要であると思った。

⑥ 市川委員（熊本市社会福祉協議会）

熊本市地域献血推進連合協議会への助成を継続的に行っている。熊本市社会福祉協議会は地域の福祉事業をサポートしており、関連施設で献血推進ポスターの掲示や、啓発冊子の設置などを行っている。

⑦ 加藤委員（熊本県学生献血推進協議会）

熊本県学生献血推進協議会活動報告資料に添って詳細に説明。
（報告内容の主なものとして、）学内献血やキャンペーン時に他県の学生献血推進協議会とコラボして献血啓発活動を行った。各大学で行う学内献血は、令和４年度は県内９大学で行い、献血者数が令和３年度から３４８名増加し１１４５名であった。

【（３）各団体の献血推進活動等についての質疑応答】

（議長）令和４年度大学別の献血者数のうち、熊本大学が多いのはなぜか。

（加藤委員：熊本県学生献血協議会）

学生献血推進協議会のメンバーに熊本大学の学生が多く所属しているというわけではない。熊本大学は学生数が多いからではないかと考えている。熊本保健科学大学においては、実習期間が重なり、献血にご協力いただける方が少なかった。東海大学においては、キャンパスが２か所に分かれており、授業の関係等で献血が行われているキャンパスに来れなかった可能性がある。

【（４）若年層への普及啓発についての意見】

（議長）若年層の献血者増加に向けてご意見をお願いしたい。

《若年層への啓発品について》

（加藤委員：熊本県学生献血推進協議会）

学内献血をしたときに、モバイルバッテリーを配っているが、学生の中では、モバイルバッテリーを自分で持っていることも多く、充電ケーブルの方が嬉しいという意見があった。また、学生はお菓子を配ると嬉しい。

(井芹委員：熊本キャスルライオンズクラブ)

高校では、献血してくれた方にパンを配っているが、とても喜ばれている。

《若年層を対象とした広報について》

(加藤委員：熊本県学生推進献血協議会)

広報活動について、若年層は、SNS については、X、Instagram、TikTokなどを休み時間などによくみているのを見かける。これらの SNS などで情報発信をすると若者の目に留まるのではないか。熊本県学生献血推進協議会も X、Instagramがあるので、あわせて情報発信を行うこともできる。

(市川委員：熊本市社会福祉協議会)

他都市の献血の推進の取組状況をみると、堺市では、若者への献血の普及啓発について、成人式における啓発活動ということで、はたちの集いの専用ホームページに啓発のチラシを掲載して献血の呼びかけを行う取り組みをされている。このような取り組みは有効な広報啓発策だと思うので、事務局でご検討いただきたい。

(事務局)

熊本市においても、新たな SNS を今後検討していけたらと考えている。各団体が献血活動を行うときに、それぞれの団体で SNS を発信すると、いろんなところで目に触れる機会が増えると考えているため、御協力をお願いしたい。

《若年層の献血者増加に向けて献血に対する意見》

(山川委員：熊本市地域婦人会連絡協議会)

くまもと成仁病院では、献血が午後から行われているが、ディサービスの職員の方々から午前中に行うことができないかという意見を聞いた。午前中に献血したいけど仕事のためできないようである。

(熊本県赤十字血液センター)

看護師や医師からは、午前中は患者対応が多く忙しいという意見があったため、通常、病院献血実施の際は午後に実施している。ディサービスの職員の方々から午前中に献血をしてほしいという意見が多いのであれば終日献血の実施を検討していく必要もあると考えている。しかし、終日献血であれば、献血必要数50人以上が見込めなければ厳しいため、ディサービスの職員の方々が実際にどのくらいいらっしゃって、どのくらいの方々が献血にご協力頂けるのか等、実施にあたっては、病院・校区の方々との密な情報共有を行っていく必要がある。

(岡本委員：熊本市地域献血推進連合協議会)

献血が平日の日中にあるため、献血に行きたいけど行けない方が多いため、21時くらいまでやってほしい。時間の見直しなど構造的に見直しなど行わないと献血者が増えないという意見も聞く。

(議長)

30代、40代も減ってきているが、献血が平日の日中にあり仕事で献血に行けない状況のためさらに献血者が増えづらいかもしれない。今後も、若年層普及に向けた取り組みや新たな広報に向けて検討し、若年層の献血者増加に向けて活動していけたらと思っている。

5 報告 熊本県内の血液状況について

熊本県赤十字血液センター献血推進課長 岩根一己氏から「熊本県内における血液事業の現状について」の資料に添って報告。(説明資料のテーマは、①献血状況、②今後の取り組み、④若年層対策など。)

400mL 献血から製造される赤血球製剤において、本年1月から10月までの累計では、熊本県民に必要な輸血量を熊本県民の献血で賄えていないのが実態。供給に足りない分は九州内をはじめとする他県からの融通でしのいでおり、県民の需要に県民の献血で賄える体制をすぐにでも構築していかなければ、最悪の場合、必要な時に必要な血液製剤が届けられないといった事態も想定される。持続可能な血液事業を構築していくためには、若年層対策、複数回献血者の確保、予約献血の推進が、早急に対処していくべき課題となる。

以上、今年度の会議はすべて終了した。